漁港は魚の保育園

漁港漁場月報のバックナンバーは
左のQRコードから読むことができます

漁港漁場月報

令和5年6月15日　発行
毎月　1回15日発行
編集兼発行人　公益社団法人　全国漁港漁場協会
高吉　晋吾
東京都千代田区神田鍛冶町3－6－7
ウンビン神田ビル2階
電話　東京（6206）0066
ホームページ　http：//www.gyokou.or.jp/
定価　1部　70円　（会員の購読料は会費の中に含む）

第80回定時総会を開催

全国漁港漁場協会

全国漁港漁場協会の定時総会の様子

新会長に髙吉晋吾氏

すべての議案を原案通り承認

全国漁港漁場協会は第80回定時総会を6月8日午後、東京都千代田区の全日通霞が関ビルで開催し、すべての議案を原案通り承認した。任期満了に伴う役員の改選で新会長に髙吉晋吾漁港漁場漁村総合研究所理事長を選任した。

来賓として勝俣孝明農林水産副大臣、水産庁から田中郁也漁港漁場整備部長、横山純計画課長、櫻井政和防災漁村課長、中村克彦水産施設災害対策室長が出席した。

来賓挨拶する勝俣副大臣

開催に際して橋本牧会長は「急速な人口減少、輸入資材の価格高騰、地球規模での環境変化など、我が国水産業に影響を及ぼす様々な課題がある中、水産物の輸出拡大や和食文化への理解増進、養殖水産物の品質向上など、これまでの努力が実りつつある。

漁港漁場整備の根幹にある目標は国民に良質な水産物を届ける漁業者の所得向上を図り、若者にとって魅力ある漁業を実現し、全国の浜を元気にすること。漁港漁場整備長期計画にのっとり漁港の衛生管理や流通の高度化、沖合域や漁港における養殖の拡大、漁場整備による水産生物の生息環境の改善などに向け、会員の皆さんと協力して取り組んできた。

また、漁港漁場整備法が改正されて体制が整ってきた海業。海業の振興に向けても会員の皆さんと意見交換を図りながら進めていきたい」と挨拶した。

勝俣農水副大臣「協会の指導力不可欠」

来賓あいさつで勝俣副大臣は漁港漁場整備法の改正に触れ「海業の取り組みを漁港利用との調和を図りながら推進する制度を創設するとともに、水産物の輸出促進に向けて漁港施設の種類拡充に取り組んだ。これらを推進していくには協会の指導力が不可欠」と話し、さらなる協力を求めた。

議事に移り、議長選出を一任された橋本会長は、中畑保一愛媛県漁港漁場協会会長（愛媛県議会議員）を議長に指名した。中畑議長は議事録署名人に徳島県漁港漁場協会の影治信良会長（美波町長）と沖縄県漁港漁場協会の當銘真栄会長（糸満市長）を指名し、議事を進行した。

議案の審議では、第1号議案「令和4年度決算承認の件」、第2号議案「令和5年度会費の承認の件」、第3号議案「役員報酬等の額の承認の件」をいずれも原案通り承認した。

第4号議案「役員選任の件」では、理事と監事全員の任期が満了となったことから改選を行った。橋本牧会長が退任し、新会長に髙吉晋吾漁港漁場漁村総合研究所理事長を選任した。

水産業振興、基盤整備、地域活性化の推進へ

橋本牧前会長は退任あいさつで「会員の皆さんに支えていただき、漁港漁場整備予算の確保、長期計画策定に向けた支援ができた。就任時に掲げた都道府県協会と全国協会の連携強化、経営基盤の構造的強化などについても徐々に成果が出ている。今後も本協会の活動が地域活力に貢献できるようぜひ新会長を支えていただきたい」と話した。

髙吉新会長は「伝統ある当協会の舵取りを担うことに重責を感じている。橋本前会長が築いてこられた全国の会員との信頼関係を引き継ぎ、水産業の振興、水産基盤の整備、漁業地域の活性化を推進する役割を誠心誠意果たしていく」と意気込みを語った。

水産業をめぐる多くの課題に対しては「きめ細かく対応できるよう工夫された水産基盤整備予算と、海業にも活用できる漁港という大きな財産は、持続可能な地域・水産業を確保していく上で強力な支えとなる。会員の皆さんと意見交換を行い、協会職員と協力して予算の獲得と施策実現に努める」と誓った。

髙吉新会長は漁港漁場漁村総合研究所の8月の定時評議員会で同研究所理事長を退く。

第31回通常総会開く

全国漁港海岸防災協会

挨拶する衛藤会長

全国漁港海岸防災協会は第31回通常総会を6月8日午後、東京都千代田区の全日通霞が関ビルで開催し、すべての議案を原案通り承認した。

来賓として水産庁から田中郁也漁港漁場整備部長、櫻井政和防災漁村課長、中村克彦水産施設災害対策室長が出席した。

衛藤征士郎会長は冒頭あいさつで「近年気候変動に起因する自然災害が激甚化・頻発化し、これまでに経験したことのない自然災害が発生している。各地で地震も多く発生し、近い将来には南海トラフ地震津波による被害も懸念されているなか、防潮堤の構造を強化し、人命を第一としたソフト・ハードの一体となった漁村の防災減災対策が急務となっている。

こうした状況下で、当協会の昨年度の事業については、会員の皆様のご支援とご協力をいただきながら、令和4年度は概ね事業計画の通り実施することが出来た。令和5年度も予算対策、海岸保全施設の整備促進運動、防災・減災対策の重要性の啓発など普及活動を会員や海岸関係団体、全国漁港漁場協会と緊密に連携して進めていく」と話した。

続いて、来賓の田中漁港漁場整備部長が神谷崇水産庁長官の祝辞を代読。防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策や漁港漁場整備法の改正などのもとで進める施策に触れたうえで「魅力ある水産業・漁村の確立には、基盤となる漁港や漁村の安全安心の確保が必要」とし、漁港海岸の効率的な整備に向けて協力を呼び掛けた。

続いて、衛藤会長が徳島県漁港漁場協会の影治信良会長（美波町長）を議長に選出。影治議長により、議事録署名人に比田勝尚喜長崎県漁港漁場協会会長（対馬市長）、沖縄県漁港漁場協会の當銘真栄会長（糸満市長）が指名され、議案の審議に移った。

議事では第1号議案「令和4年度会務報告及び収支決算の承認に関する件」、第2号議案「令和5年度事業計画、収支予算及び会費の承認に関する件」、第3号議案「役員報酬の額の承認に関する件」をいずれも原案通り承認した。

第4号議案「役員選任に関する件」では、理事及び監事全員の任期が満了することから改選を行い、衛藤会長を再任した。

新任の理事に小泉勝石川県漁港漁場協会会長（志賀町長）、新原芳明広島県漁港協会会長（呉市長）、髙橋透宮崎県漁港漁場協会会長（日南市長）を選任した。

漁港漁場功績者等表彰式を開催

和やかに記念撮影する功績者ら

令和5年度漁港漁場功績者等表彰式が第80回漁港漁場協会定時総会の会場において総会の議事が始まる前に開催された。

漁港漁場功績者等表彰式は全国漁港漁場協会表彰規程に基づき毎年開催されており、協会役員としてその運営・発展に功績があった者（21名）、地方公共団体の職員として永年勤務し、漁港漁場行政に貢献した者（10名）、業績顕著な者（2名）、漁業の振興及び地域の活性化に著しく貢献する等の優秀な漁港漁場整備事業を実施した地方公共団体（1団体）、漁港漁場愛護運動等を通じて功績のあった団体（1団体）が表彰され、橋本牧漁港漁場協会会長から賞状と記念品が贈呈された。

退任挨拶

長期計画改定、予算確保で成果

前会長　橋本牧

6月8日の理事会において会長を退任いたしました。8年間勤めさせていただきましたが、お陰様で充実した日々を送ることができました。この間、二度の漁港漁場整備長期計画の改定作業において、全国から集めた要望等を国に要請し、計画に反映していただいたことや、極めて厳しい予算環境の中、必要な水産基盤整備予算を確保いただいたことなど、当協会として一定の成果が出せましたのは、会員の皆様をはじめ、国や地方公共団体、関係団体等の温かいご支援・ご指導の賜物と存じます。心から厚く御礼申し上げます。

全国漁港漁場協会組織の活性化に関しては、漁港施設等の長寿命化と会員の技術者不足を補うため、未来を指向した「漁港情報クラウドシステム」を開発し、全国の漁港へ普及を図って参りました。高い評価をいただき、「第4回インフラメンテナンス大賞」の特別賞をいただきました。国が目指されている施設の維持管理における新技術の導入や省コストを実現するためにも施設情報のデジタル化を引き続き進めていくべきと思います。

また、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な社会の変化にも苦労しました。職員を護りながら、業務のパフォーマンスを維持できるよう、家庭でテレワークが可能な環境を構築し、オンライン会議等の活用を徹底することなどに努めました。また、残念ながら2年続けて全国漁港漁場大会の実施が叶わず、東京での緊急集会に変更したのですが、各地からの会員の皆さんの協力を得て、例年に劣らない予算獲得活動ができましたし、ブランクを乗り越えた昨年の北海道大会では各地から多数の参加者を得て大成功となりました。組織運営上もリスク管理に心掛けるべきと感じました。

今後とも、高吉晋吾新会長をお支えいただき、漁港漁場整備で世界に冠たる魚食文化を支える水産業と豊かな漁村の再生を実現していただきますようお願い申し上げ、退任のご挨拶といたします。

握手を交わす新旧会長

就任挨拶

漁港は課題解決への強み

新会長　髙吉晋吾

橋本前会長の後任として会長職を務めさせていただくこととなりました。

伝統ある全国漁港漁場協会の舵取りは私にとりましてたいへんな重責です。都道府県協会をはじめとする会員の皆様、国会の先生方、水産庁及び関係省庁、地方公共団体、関係団体の皆様にはご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当協会は、地域の声をしっかりと聞き、水産業の基盤の整備や漁業地域の活性化に必要な予算や施策の提案と要請、また会員への有用な情報発信等を行い、水産業・地域の発展のために活動する団体と認識しています。我が国の水産業・地域は、国民への水産物の安定供給、沿岸域の環境保全をはじめ重要な役割を果たしており、最近は国際的な緊張関係が強まる中で、水産食料の安全保障、沿岸域の監視などの役割が従来以上に重要性を増しています。

しかしながら、地球規模の環境変化、資源の減少や災害の激甚化、漁村人口の減少・高齢化などの多くの困難な課題に直面しています。これらの課題を克服しながら、水産業の成長産業化、地域の再生などに取り組み、我が国の水産業・地域が将来にわたり持続可能となるようにしていかなければなりません。

私は、時代の要請に応じてきめ細かく対応できる水産基盤整備等の予算を持っていること、先月の法律改正で実現した海業にも活用できる漁港という財産があることが、課題を解決する上で、たいへん大きな強みであり、大事にしていかなければいけないと思っています。

私自身は、はなはだ微力ではございますが、会員をはじめとする皆様との意見交換・信頼関係の構築に努め、当協会の役職員と力を合わせ、全力で職務に取り組んでまいりますので、お力添えを賜りますようお願いいたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

令和4年度

水産公共民間技術の確認審査・評価事業 評価証授与式を開催

漁港漁場新技術研究会

東洋建設の関係者と橋本会長（左から2人目）

（一社）漁港漁場新技術研究会は、令和5年6月5日に「ちよだプラットフォームスクエア」会議室にて「令和4年度水産公共民間技術の確認審査・評価事業」の評価証授与式を執り行った。水産公共民間技術の確認審査・評価事業は、依頼された技術の機能について、技術開発の過程、試験、実績などの資料に基づき、学識者から成る専門委員会の審議により確認を行い評価するもの。

令和4年度は、東洋建設株式会社の「石材投入施工管理システム」の更新依頼技術について確認審査され、評価証が授与された。

石材投入施工管理システムは、漁場整備事業において事業が進められている外洋の大水深域（水深100m程度）に計画されるマウンド礁の整備に際し、施工精度の向上と効率化を図り、工期の短縮と材料歩留りの向上を目的に開発された。

このシステムは、全開バージによる石材投入時の堆積形状を推定し、その結果を用いた投入計画の立案、および実測値による推定形状の見直しを容易にすると共に、現地において、潮流の影響を踏まえた堆積位置の推定を行い、投入位置へバージを誘導する機能を有するもの。

外洋の大深度海底に計画される石材によるマウンド礁の施工時にこのシステムを用いることで、施工の効率が向上するとともに、高い精度で所定の形状とすることが可能となるシステムである。

この技術の確認審査・評価においては、以下に示す4つの事項、

①実績の無い船倉の寸法、海底水深に応じた堆積形状が、短時間で推定できること。

②計画盛土、海底地盤、および推定堆積形状が即時に表示され、初期投入計画が短時間で策定できること。

③推定堆積形状の見直しが即時に行え、見直し時の投入計画が短時間で策定できること。

④潮流の影響を踏まえて投入位置が迅速に設定できること。

について、評価できるものであることが確認された。

平成29年度に初回の水産公共民間技術の確認審査における評価後、水産庁直轄事業の

○平成30年度　隠岐海峡地区マウンド礁築造工事

○平成31年度　対馬海峡地区マウンド礁築造工事

○平成31、令和2年度　大隅海峡地区マウンド礁築造工事

が、このシステムにより施工された。

評価証授与式終了後、水産庁漁港漁場整備部にて田中部長以下課長、室長に評価証授与の報告と技術概要の説明を行った。

令和5年度水産公共民間技術の確認審査については、既に審査技術の募集が開始されている。

水産白書、食料安全保障に焦点

水産庁が6月2日公表した令和4年度水産白書では、水産業における食料安全保障について特集している。ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安により、輸入に頼る日本の脆弱な食料供給体制が顕在化したことを背景に、良質なたんぱく源としての水産物の重要性と食料安全保障の強化が急務であることを記している。

特集の第1節では日本が国内で消費される魚介類の多くを輸入に頼っている状況を明らかにしている。北西太平洋における日本漁業とロシアの関係についてもていねいに解説した。ロシア・ウクライナ情勢下でも、水産資源の適切な管理や日本の漁業活動に係る権益の維持・確保のために、戦略的に対応していく必要性を記述した。

第2節では水産物の食料安全保障に向けた新たな動きをまとめた。食料・農業・農村基本法と水産基本法に規定されている食料の安定供給の確保について説明するとともに、農林水産省が公表している食料の安定供給に関するリスク評価を示している。

今後、水産基本計画に基づき資源管理の徹底と成長産業化に取り組み食料自給率の向上を図ること、昨年6月に改訂した「活力創造プラン」や12月に策定した「食料安全保障強化政策大綱」のもと、必要な施策を推進することを記した。

令和3年度以降の我が国水産物の動向については▽需給・消費▽漁業・養殖業の生産や経営、就業者、技術開発、漁協、水産物の流通・加工の動向▽水産資源と漁場環境▽国際情勢▽漁村づくり▽東日本大震災からの復興――について、事例やコラムを織り交ぜながらまとめた。漁村づくりの項目では漁村活性化に向けた取り組み「海業」について解説している。

水産庁

「海業」の漁港利用でガイドライン

水産庁は「海業」による漁村の活性化をめぐり、漁港での釣り利用のルールやマナー確保、釣り人の安全、漁港の釣り利用による所得・雇用の創出などに関する考え方を示した「漁港における釣り利用・調整ガイドライン（案）」を6月12日公表した。

漁港では、岸壁を利用する釣り人が垂らした釣り糸が漁船に巻き付いて航行の障害になることがある。ほかにも立ち入り禁止区域への侵入、ごみ放置、無断駐車などのトラブルが多発している。

一方で漁港での釣りは漁村地域への交流のきっかけでもあり、家族連れで来訪することで地域水産物にふれあう機会として消費拡大に寄与する側面も期待できる。

ガイドライン（案）では、漁港を釣りに活用している事例、有識者や漁港管理者の意見を踏まえ、漁港の利用ルール、マナー確保対策、釣り人の安全確保対策、漁港の釣り利用による所得・雇用の創出方策について考え方を示した。漁業活動との調和を図りながら「海業」を推進することで漁村における賑わいや所得向上、雇用創出につなげる。

釣り人とのトラブル防止へルールづくりを

具体的には、漁港に訪れた釣り人の車が不法駐車や漁業活動への支障とならないよう、漁港内や漁港周辺の駐車場を含めてスペースの確保を図る。ゴミ回収が困難な場合は、持ち帰りの徹底を図り、必要に応じて見回り体制も整える。ゴミ放置の常習者には釣り利用を制限させる。

所得向上や雇用機会の創出に向けては、釣りによる漁港への来訪者を水産物直売や食堂、地域での宿泊に誘導することも提案している。

令和5年度

市町漁港漁場担当者研修会の開催

佐賀県漁港漁場協会

市町漁港漁場担当者研修会の様子

佐賀県漁港漁場協会（会長・峰達郎唐津市長）は、5月12日（金）に佐賀市「アバンセ」において、令和5年度市町漁港漁場担当者研修会を県水産課との共催により開催した。

新型コロナウイルス感染拡大を受けて令和元年以来4年ぶりの開催となり、県、市町及び漁業協同組合の担当者等45名が参加した。

研修会は、主催者を代表して県水産課の藤川健一副課長の挨拶に続いて講義が行われ、出席者は熱心に聴講していた。

特に今年度は、水産庁漁港漁場整備部計画課の落野憲人計画官を講師に迎え、「藻場・干潟等の保全・創造について」及び「海業の推進について」の2題を、取組事例を交え詳細かつ内容の濃い講演があり、より充実した研修会となった。

また、（公社）全国漁港漁場協会から「漁港情報クラウドシステム」について、その特徴や導入費用等の説明があった。

主な講義内容と講師は次のとおり。

○藻場・干潟等の保全・創造について、海業の推進について（水産庁漁港漁場整備部計画課計画官　落野憲人）

①水産基盤整備事業等（漁港漁場整備）の留意点について

②漁港の管理について

③災害時の対応等について

（①～③：佐賀県水産課漁港漁村整備担当係長　佃政則、同係長　岩本幸徳、同主査　森川太郎、同技師　八坂拓哉、同主事　古川尚輝）

第51回定時総会開催

沖縄県協会

挨拶する當銘沖縄県協会会長

（一社）沖縄県漁港漁場協会（会長・當銘真栄糸満市長）は第51回定時総会を5月29日（月）、那覇市の沖縄県水産会館において開催した。

開催に当たり當銘会長は、「本県の水産業を取り巻く環境は、原材料やエネルギーの高騰なども相まって厳しい状況にある。地震、津波や台風等の自然災害に対する防災・減災対策も喫緊の課題である。

離島県の本県は、各地域の漁港が水産業振興のみならず、地域振興の核としての役割も担っている。

今年度は、防波堤の改良工事・漁船の大型化に対応した漁港の拡張工事・老朽化や機能の低下した漁港施設の保全工事・浮魚礁の更新等が行われる。

当協会は、引き続き着実に、本県の漁港漁場の整備が推進されるよう水産関係機関・団体との連携強化を図っていく」と挨拶した。

来賓として、内閣府沖縄総合事務局の福島央農林水産部長、沖縄県農林水産部の長本正農漁村基盤統括監、（公社）全国漁港漁場協会の森田正博常務理事が出席した。

議事に入り、令和4年度事業決算、令和5年度会費の件等について提案どおり承認した。

また、報告事項の令和5年度事業計画において漁港漁場整備長期計画の柱である海業振興について、水産庁を招いて勉強会・意見交換会を今後実施していくとの説明がなされた。

令和5年度定時総会開催

岩手県協会

岩手県協会の総会の様子

（一社）岩手県漁港漁村協会（会長・大井誠治岩手県漁連会長）は、5月29日午後2時から盛岡市の水産会館において、令和5年度定時総会を開催した。

開会の挨拶で、大井会長が「岩手県では東日本大震災津波の発生から、12年2ヶ月が経過し、この間、国・県・市町村及び水産関係団体等関係者の懸命な努力により、漁港等の水産基盤施設や遅れていた防潮堤などの海岸保全施設についても、完了の見通しがついた。

しかしながら、近年の海洋環境の変化などにより主要魚種の漁獲量が激減し、特に本県沿岸漁業の基幹魚種である秋サケは記録的な大不漁となり、水揚量は震災前水準に遠く及ばないなど、水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

このような中、岩手県や市町村などの行政と業界が一体となって、不撓不屈の精神でこの不漁を克服し夢と希望を持って、国民に安全・安心な水産物を安定的に供給し、漁業地域の経済を支える水産業の需要な役割を果たすべく、引き続き、当協会といたしましても、必要な予算の確保や事業推進のため、皆様方とともに、頑張って参りたい」と述べた。

続いて来賓の達増拓也県知事（代理・菊池哲副知事）、五日市王県議会議長（代理・小野共副議長）、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長が祝辞を述べた後、鈴木俊一財務大臣・金融担当国務大臣からのお祝メッセージが読み上げられた。

県議会議員7名と岩手県農林水産部長など幹部職員の来賓の紹介の後、三田地和彦小本浜漁業協同組合代表理事組合長を議長に議事に入り、令和4年度事業報告及び収支決算、令和5年度事業計画、収支予算、会費、借入金限度額及び役員報酬額（案）の議案を提案どおり承認した。

続いて、役員の補欠選任が行われ、新しい理事5名、監事1名を選任した。

第70回通常総会を開催

北海道協会

北海道協会の総会の様子

北海道漁港漁場協会（会長・髙橋昌幸神恵内村長）は、5月30日13時から札幌市内のホテルポールスター札幌において、第70回通常総会を開催した。

冒頭、髙橋会長から「昨年は全国漁港漁場大会を北海道で開催し、道内外から大変多くの方に参加いただいた。また、開催に当たって準備段階からお手伝いいただいた北海道開発局、北海道、函館市、視察漁港地区の市町村、漁協の皆さんには心から感謝申しあげる。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が大きく減少に転じ、観光客入込数や飲食業界の消費が上向いてきており、水産業界でも消費や輸出の拡大が期待される。

昨年の本道の漁業生産は数量では横這いだったが、魚価高や輸出の堅調等から金額では600億円ほど上回った。

ロシアのウクライナ侵攻の影響で、北方領土の返還交渉や漁業交渉に遅れなどが出ている。本道経済や水産業の振興のためにも一日も早い終結が望まれている。

国の漁港漁場整備長期計画や今年5期目を迎えた道の水産業・漁村振興推進計画では、ブルーカーボンとして期待される藻場の造成や漁港を最大限に活用した漁村づくり等が進められることとなっており、今後の事業推進に大きく期待している。

本道の令和5年度の水産基盤整備関係予算は、4年度の補正と併せて事業費ベースで約506億円と前年度を上回る結果となった。関係の皆さまに感謝申しあげる」と挨拶があった。

次いで、来賓の横山純一水産庁漁港漁場整備部計画課長、細井俊宏北海道開発局農業水産部長、杉西紀元北海道水産林務部水産基盤整備担当局長、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長より祝辞が述べられた。

今年度の事業計画は、水産基盤整備予算の確保及び計画推進に向けた要請、漁港愛護運動の推進などとされ、漁協選出役員2名の退任に伴う補充選任が行われた。

総会終了後には、水産庁の横山計画課長による「海業推進について」の講演が行われ、103名が出席した。

第75回通常総会を開催

鹿児島県協会

鹿児島県協会の総会の様子

鹿児島県漁港漁場協会（会長・川添健長島町長）は、5月30日（火）午後3時から城山ホテル鹿児島において、第75回通常総会を開催した。

冒頭、川添会長の挨拶に続き、来賓の田中郁也水産庁漁港漁場整備部長、鹿児島県知事（代理・平林孝之県商工労働水産部長）、鹿児島県議会議長（代理・小園しげよし県議会副議長）、（公社）全国漁港漁場協会長（代理・森田正博常務理事）が祝辞を述べた。

議事に先立ち、鹿児島県漁港漁場協会表彰規程に基づく令和5年度功績者として、荒木耕治理事（屋久島町長）、河野勝人氏（元山川町漁業協同組合長）、肥後正司（十島村長）の3名の報告があり、川添会長から感謝状と記念品が贈呈された。議事に入り、前田祝成理事（枕崎市長）を議長に選出し、令和4年度事業報告、収支決算及び剰余金処分案、令和5年度事業計画案、収支予算案、会費案を審議し、いずれも原案どおり承認された。また、役員補欠選任が次のとおりあった。

＜理事＞▽宮内和一郎（鹿児島県漁業協同組合連合会代表理事専務）▽博頼別漁協組合長が副議長に選出され、村瀬優副大会長（広尾町長）より大会宣言が、盛田昌彦運営委員（鹿部町長）より議案の「漁港・漁場・漁村の整備促進について」が朗読され、いずれも満場一致で決議された。

第27回北海道漁港漁場大会を開催

北海道漁港漁場協会（会長・髙橋昌幸神恵内村長）は、5月30日15時から札幌市内のホテルポールスター札幌において、第27回北海道漁港漁場大会を開催した。

冒頭、髙橋会長から「2年に亘り延期となった第71回全国漁港漁場大会には、全国から魅力の発信等を強力に推進していくことが重要と考えている」と挨拶があり、次いで神谷崇水産庁長官（代読・横山純計画課長）、石塚宗司北海道開発局長（代読・細井俊宏農業水産部長）、鈴木直道北海道知事（代読・山口修司水産林務部長）、冨原亮北海道議会議長、阿部国雄（一社）北海道水産会代表理事会長（代読・小川智靖常務理事）、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長から祝辞が述べられた。

来賓紹介後、漁港愛護優良団体の表彰が行われ、同協会一般表彰3団体、特別表彰5団体、北海道知事から3団体に賞状が授与された。

議案審議では、湊屋総羅臼町長を議長に、大谷由鮫島祐藏（山川町漁業協同組合長）＜監事＞▽塩田耕大郎（甑島漁業協同組合長）

議事終了後、田中郁也水産庁漁港漁場整備部長から「海業の推進について」と題して講演が行われ、参加者一同熱心に聴講した。

総会終了後の午後5時20分からは、同ホテルにおいて約70名の参加者を得て立食形式の懇談会が行われた。

多数が参加した北海道漁港漁場大会

【大会スローガン】

一　水産業の成長産業化に向けた生産・流通機能の強化や増養殖の推進

二　持続可能な漁業生産体制の確保対策の推進

三　大規模災害に備えた漁港・漁村・海岸の強靱化対策、長寿命化対策の推進

四　漁村の活性化と漁港利用促進対策の推進

五　水産業・漁村の多面的機能の発揮対策や漁船、漁具、機材等のリース方式による整備の推進等、産地水産業の強化に対する支援の一層の推進

令和5年度

漁港漁場関係業務研修会の開催

山口県漁港漁場協会

研修会で熱心に聴講する出席者

山口県漁港漁場協会(会長・前田晋太郎下関市長)では、6月1日(木)に山口市内のセントコア山口において、県及び市町の漁港漁場関係担当者約50名の参加による令和5年度漁港漁場関係業務研修会を開催した。

この研修会は、県と漁港漁場協会の共催により毎年度開催しているもので、今回で32回目となる(令和2年度(29回)と令和3年度(30回)は、新型コロナウイルスの影響により書面開催)。

研修会は、主催者を代表して岡本勲・山口県漁港漁場整備課長(山口県漁港漁場協会常務理事)の挨拶に続いて講義が行われ、出席者は熱心に聴講していた。

演題と講師は次のとおり。

○漁港の管理について
山口県漁港漁場整備課漁港管理班主事　小玉千紘

○漁港関係事業における関係手続について
山口県漁港漁場整備課計画班主査　森山隆浩

○事業執行における注意点について
山口県漁港漁場整備課整備班主査　小島磨

○水産物供給基盤整備事業について
山口県漁港漁場整備課整備班主任技師　坂本亮

○海岸・漁村事業及び災害復旧事業について
山口県漁港漁場整備課整備班主任　近藤圭晃
山口県漁港漁場整備課整備班技師　古谷昌哉

○一般財団法人山口県建設技術センターからのお知らせ
(一財)山口県建設技術センター技術課長　宮崎浩司

第74回通常総会を開催

静岡県協会

静岡県協会の通常総会の様子

静岡県漁港漁場協会(会長理事・中野弘道焼津市長)は、5月30日午後3時半から静岡市の「グランディエールブケトーカイ」において第74回通常総会を開催した。

冒頭、中野会長が主催者挨拶し「水産業・漁村を取り巻く環境は依然多くの課題を抱えているが、これら課題の解決に向けて、漁港並びに漁場の整備をはじめ、漁村の健全なる発展のため、会員及び関係機関、関係団体等と緊密なる連携を図りながら、引続き本県水産業の振興に資するべく活動を進めていく」と述べた。

続いて、来賓の影山智将(公社)全国漁港漁場協会顧問、静岡県経済産業部水産・海洋局板橋威局長、静岡県交通基盤部港湾局石井哲漁港整備課長が祝辞を述べた。

初島漁業協同組合の新藤康晴組合長を議長として議事に入り、令和4年度事業報告・収支決算、令和5年度事業計画・会費算出方法及び収支予算(案)、役員報酬の支給の件、任期満了に伴う役員選任の件を原案通り承認し、総会は終了した。

議事終了後、新役員の互選による正副会長の選任を行い、会長理事に中野弘道焼津市長、副会長理事に鈴木精伊豆漁協理事兼稲取支所運営委員長と橋ケ谷長生小川漁協代表理事組合長が、それぞれ選任された。

第22回通常総会を開催

愛知県協会

愛知県漁港漁場協会(会長・石黒和彦南知多町長)は、6月2日(金)午前11時から名古屋市の「KKRホテル名古屋」において第22回通常総会を開催した。

会議の冒頭、石黒会長は「本県の水産業を取り巻く環境は、海域の栄養塩類の減少などの漁場環境の変化に伴う水産資源の減少や、燃油の高騰など厳しい状況が続いており、さらに、想定される南海トラフ地震に備えた防災・減災対策が喫緊の課題となっている。皆様方には本協会の活動について、これまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げる」と挨拶し、続いて、来賓の橋本牧(公社)全国漁港漁場協会会長が祝辞を述べ、議事に入った。

愛知県協会の総会の様子

議事では、石黒会長を議長として、「令和4年度事業報告・収支決算(案)」、「令和5年度事業計画及び収支予算及び会費負担(案)」について、出席会員に諮り、原案通り承認されて、総会は終了した。

第48回定時総会を開催

青森県協会

(一社)青森県漁港漁場協会(会長・船橋茂久平内町長)は第48回定時総会を5月31日(水)午前11時から、青森市のウェディングプラザアラスカで開催した。

冒頭、船橋会長が「本県水産業を取り巻く環境が依然として厳しい状況が続く中、本会は本県水産物の安定供給と地域社会の発展に寄与するため、水産業の基盤となる漁港、漁場及び漁村の総合的な整備促進に必要な諸対策を講じ、漁業生産等の支援に努めている。水産政策の改革が進められる中、水産関係予算の総額は五年連続となる3000億円を超え、漁港・漁場・漁村の着実な整備につながるとともに、水産資源の確保と成長産業化が加速するものと期待している」と挨拶した。

挨拶する船橋青森県協会会長

来賓として田中郁也水産庁漁港漁場整備部長(代理・中村克彦同部防災漁村課水産施設災害対策室長)、青山祐治青森県副知事、橋本牧全国漁港漁場協会会長が出席した。

三國優議長(野牛漁協代表理事組合長)が議事を進行し、令和4年度決算承認の件、令和5年度会費承認の件、役員報酬額承認の件の3件を提案どおり承認した。

報告事項として、令和4年度事業報告の件、令和5年度事業計画及び収支予算の件の2件について事務局から報告があった。

人事異動(各道県本所課長級以上)

(六月一日付及び四月一日付)

【神奈川県】

神奈川県環境農政局長・脱炭素戦略担当局長(神奈川県デジタル行政担当局長)尾谷美貴江▽神奈川県環境農政局副局長(神奈川県産業労働局産業部長)佐藤達也▽神奈川県環境農政局農水産部長(神奈川県環境農政局農水産部農政課長)鈴木裕和

(五月二十二付)

【福井県】

農林水産部水産課長(水産試験場長)吉村祐一

(六月一日付)

【北海道】

水産林務部次長(札幌道税事務所税務管理部長)渡辺敦司▽水産林務部水産局漁港漁村課長(留萌振興局留萌建設管理部事業室長)山本明宏▽水産林務部水産局水産基盤整備担当局長(水産林務部水産局水産経営課長)藤田瑞代▽総務部次長・行政局長(水産林務部次長)黒澤政之▽総合政策部次世代社会戦略局・道総研派遣・中央水産試験場副場長(水産林務部水産局水産基盤整備担当局長)杉西紀元▽渡島総合振興局副局長・建設管理部担当(水産林務部水産局漁港漁村課長)山谷公二

【徳島県】

農林水産部長(病院局長)佐々木季裕▽危機管理環境部長(農林水産部長)平井琢二▽農林水産部みどり戦略推進統括監・副部長(農林水産部副理事)中藤直孝▽農林水産部次長(農山漁村振興課長)太田隆久▽運輸政策課長(高規格道路課長)原田直樹▽建設管理課長(運輸政策課長)佐野功

北村漁港議連副会長が死去

北村氏

北村誠吾衆議院議員・漁港漁場漁村整備促進議員連盟副会長が5月20日ご逝去された。没年76歳。

北村誠吾衆議院議員は、平成30年まで漁港議連の幹事長を務めた後副会長に就任し、長年漁港・漁場・漁村の整備にとどまらず我が国の水産業の発展に尽力した。国会では内閣府特命担当大臣、防衛副大臣、(衆)安全保障委員長、(衆)沖縄及び北方問題に関する特別委員長など要職を務めた。

葬儀は27日、地元のカトリック佐々教会で行われた。

俳句のさかな

料理のオールラウンドプレイヤー

島根県漁港漁場協会事務局長　三浦　順

今回はいわゆる大衆魚"あじ、さば、いわし"の第一弾、アジの中で最も多く獲れるマアジ。マアジはどこのスーパーでも並んでいるし、干物は旅館の朝食の定番。我々の生活に深く浸透している夏の魚、夏の季語である。つくりの「参」は三で旧暦三月、現代の暦で五月、これはマアジに脂がのる旬と重なる。また味が良いことから「アジ」の名がついたとも言われている。

マアジは全国の沿岸から沖合に広く分布し、各地の漁港で水揚げされている。群れで回遊し光に集まる習性を利用した、まき網で多く獲れる。浜田漁港に水揚げされるマアジは黄金色で脂が乗り、脂質10％の折り紙つき。「どんちっちあじ」のブランドとして定着しており、市場では仲買人からの引き合いが強い。一度に網で大量に獲る「網モノ」と侮るなかれ、まき網は夕方に出港し朝には帰港する一晩の操業で、漁場では氷を大量に積んだ運搬船に魚を海から直接すくい揚げるので鮮度は抜群なのである。ちなみに「どんちっち」は石見神楽の太鼓リズムから生まれた言葉ということだ。

マアジの肉質は赤身と白身の中間で旨味が強い。刺身、塩焼き、フライ、開き(塩干)と、なんでもござれのオールラウンドプレイヤーだ。「アジのタタキ」が知られているが、タタキはカツオや青魚の刺身をネギや紫蘇、生姜と和えることで魚の生臭さを和らげる。さらに関東では、タタキ状態から味噌を加え、完膚なきまで叩きのめす「なめろう」という料理がある"皿を舐めるほどうまい"ということらしい。まあ、朝獲れが食べられる島根県では無理やり薬味と混ぜなくてもいいと思うが。

鯵の俳句を見てみよう。「やりくりの思案の鯵をたたくかな」「鯵叩くひつつめ髪に割烹着」、作者は鈴木真砂女。「やりくり」が大衆魚である鯵を的確につかまえて、市井の日常の暮らしを詩にしている。「たたく」が江戸っ子的でいい。銀座の小料理屋「卯波(うなみ)」の女将であった彼女は魚を料る日常から、アジにとどまらず、アンコウ、ブリ、マグロなどなど、その魚がもつ性質や雰囲気を的確につかまえた多くの秀句がある。

刺身、塩焼き、フライ、開きと、なんでもござれのアジ

また真砂女には「羅(うすもの)や人悲します恋をして」「捨てきれぬものにふるさと曼殊沙華」など、月並みな言い方であるが、彼女の波乱に満ちた生涯の折々が句に投影されていると思う。最後の句集のタイトルにもなっている句がある。「戒名は真砂女でよろし紫(し)木蓮(もくれん)」、なんと威勢よく潔い句か。やはり江戸っ子的ですな(千葉県鴨川のご出身であるが)。木蓮は春の季語。葉が芽吹く前に白や紫の気品ある大ぶりの花をつける。紫の方はさらに孤高、矜持といった表現がぴったり。所謂「季語が動かない」お手本の句と小生は思う。

銀座の「卯波」に一度行ってみたかった。真砂女女史が昭和32年に店を開き、いつまで女将をされておられたかはわからないが、店は平成まで継続していたようだ。俳句談議で盛り上がっていたかもしれない頃、小生は山手線の反対側、新橋界隈のもつ焼屋で飲んでいたということか。

夜神楽の　太鼓の風に　鯵干さん　順

(令和三年七月二十六日付け山陰中央新報に掲載)